

# ～TANKYU～

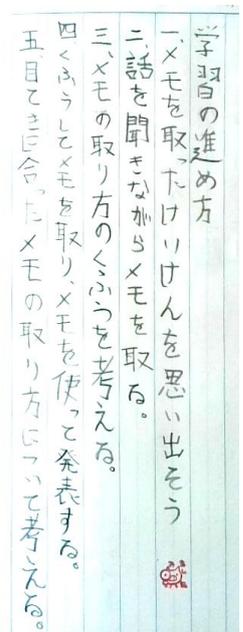
谷地南部小学校  
校内研究だより  
2022. 5. 30  
No.5 文責 荒木秀

## 効果的に自己評価をするために

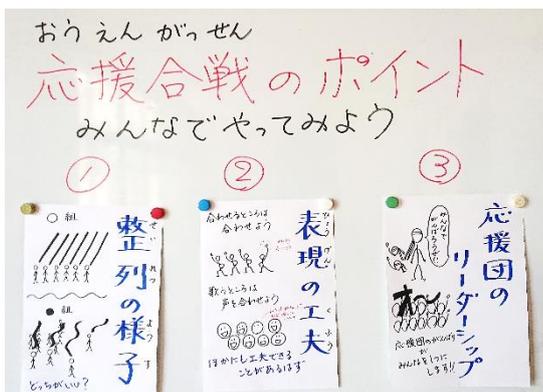
先日の校内研修では、吉田主幹より評価について様々なご助言をいただきました。特に「子どもの姿」を核として、評価を含む単元計画を立てる必要性を教えてくださいました。この点については、指導案の書き方を改訂し、近いうちに先生方にお示しするつもりです。

単元の学習を終えたゴールの姿を、教師だけでなく子ども達も共有できていることが、自己評価を行う上で大切になってくるのかなと思います。単元の導入で、それを確認する時間を設定していく必要があります。教師だけがわかっているではダメです。

先日、3年生の国語（奥山先生）の授業を拝見しました。遠足を前に、インタビューの仕方を学んでいました。何気なくノートを見せてもらうと、右のような「学習の進め方」が一人一人のノートに書いてありました。ゴールに向かうためにどんな学習が必要か、しっかりと確認する時間をとってくださっていますね。ぜひ、このような時間をきちんと設定していきましょう。できれば、評価基準も示してくださると、子ども達の目標はより明確になると思います。



話は変わりますが、運動会の応援練習が始まりました。組頭や応援団長は自分の役割を果たそうと一生懸命ですが、それ以外の子ども達の様子はまだまだ発展途上かなと感じています。そんな話を応援団担当の鹿間先生としました。もしかしたら、子ども達は何をがんばればいいのか、わかっているのではないのか。つまり、運動会当日の応援合戦の評価基準を知らないのではないのかということです。



早速、鹿間先生動いてくださいました。（荒木は言うだけで何も行動に移さず、すみません。）1階のホワイトボードに左図のような掲示をしてくださっています。子ども達の応援合戦の「見方・考え方」（目標）がはっきりしますね。ぜひ、教室でも確認してください。これによって、子ども達の様子が変化したらうれしいですね。